

生活科（なかよしタイム～わくわくタイム） 1年

大単元	I みんなで たんけんしよう
目標	身近な人や場所に関わる活動を通して、学校の施設や学校生活を支えている人々、友達について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ろうとすることができる。

小単元	I-1 ともだちになるう	4月（なかよしタイム45分1単位×3時間）【内容項目：(1)】
目標	友達に自分のことを紹介する活動を通して、友達への自己紹介の仕方を考え、友達と関わる楽しさに気づき、進んで友達作りをする。	

小単元	I-2 がっこうたんけんを しよう（「れっつ ごう！ ふぞくしょう たんけんたい」）	4～5月（わくわくタイム45分1単位×13時間）【内容項目：(1)】
目標	学校探検をすることを通して、聞きたいことや調べたいことを考え、学校生活を支える人々や施設と関わっていることに気づき、楽しく安全に学校生活を送ろうとする。	

チェック	時間	学習活動 ・ 予想される活動のイメージ	指導上の留意点	★声掛けのイメージ ◇評価規準<評価方法（観点）>
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	3	○行ってみたい場所を自由に探検し、気づきを教師に伝える。 ・探検の約束を確認し、1回目の探検をする。（主に南校舎1階が想定される） ・2回目の探検をする。（主に南校舎2階が想定される） ・3回目の探検をする。（主に北校舎や体育館が想定される）	○学校の施設に興味や疑問をもてるように、探検後に見付けたものを子ども同士で語り合う時間を設定し、それを引き出して画用紙等を書いて掲示したり、それを校舎図や写真に貼ったりする。 ○探検に対する意欲や学校への興味が持続するように、探検から帰ってきた子どもに対して教師から個別に声を掛け、短冊等に子どもの発言をキーワードで記録する。また、顔文字😊😬と色のカードを使って、気持ちを視覚化する。 ○今後の探検に向けて目的意識がもてるように、振り返り際には、課題となるような短冊をクラス全体に広げ、「ハテナ」と題して模造紙等にまとめて掲示する。 ○「ハテナ」の解決やもっと知りたいという思いを実現するために、学習方法として「先生に聞く」ことを引き出す。	★（探検から帰ってきた子どもに対して）「（どんなものがあつたか）教えて」【共感】 ★（子どもの発言に対して）「なるほどね」「すごい」【共感】「それなら、もう一回探検に行く？」【次回への見通し、期待】 ◇学校の施設や人々の様子に興味や疑問をもち、行ってみたい場所に行ったり、発見や疑問に思ったことを話したりしている。
<input type="checkbox"/>	1	○探検して気付いたこと、疑問に思ったことを語り合い、クラスで共有し、探検する場所を絞っていく※。 ・ペアで気付いたことや見付けた物を話し、それをクラス全体に伝え、もっと知りたい場所を考えていく。	○探検をして学校生活を支える人々に聞きたいことを考えられるように、見付けたことや疑問に思ったことを整理した模造紙等を掲示する。 ○探検する際には、施設の具体的な様子に着目し、数字や言葉に関心がもてるように、「施設にある物や数」の視点を引き出す。	◇探検をしたい施設や、もっと知りたいことを友達に分かりやすく伝えている。 ◇施設の数や場所、学校で働く人々に関する探検で見付けたことを記述している。 ◇探検をして疑問に思ったことについて学校で働く人々にインタビューしたいという思いを伝えている。 ◇グループで話し合ったことを基に、教職員に聞きたいことを分かりやすく記述したり、質問したりしている。 ◇教員室や給食室、事務室等で働く人々の仕事について具体的に記述している。 ◇学校の施設の様子や使い方、働く人々の仕事や思いと、自分の考えを言葉や絵で表している。 ◇学校探検をして自分で見付けた「附属小の好きなところ」を発表している。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2	○気になった物やもっと知りたい場所について、さらに知るために探検をする。（場所への興味） ・クラス全体で、1つの教室を訪問する。または、クラス半分ずつで、2つの教室に訪問する。 ・その教室に関わる先生と出会い、その教室の説明を聞いたり、質問をしたり、簡単な体験をしたりする。	○インタビューをして見付けたことを共有できるように、ペアで確かめ合う場を設ける。 ○学校のことが分かってきた達成感や、さらに学校の施設に興味や疑問をもてるように、探検後に見付けたものを子ども同士で語り合う時間を設定し、それを引き出して画用紙等を書いて提示したり、それを校舎図や写真に貼ったりする。	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2	○探検して見付けた物、分かったこと、もっと知りたいことを語り合い、さらに探検したい場所を決める。 ・新たな先生との出会いや、体験したことを振り返って語り、さらに探検したい教室をクラスで決めたり、附属小への期待や思いを絵や言葉で表したりする。	○インタビューをして見付けたことを共有できるように、ペアで確かめ合う場を設ける。 ○学校のことが分かってきた達成感や、さらに学校の施設に興味や疑問をもてるように、探検後に見付けたものを子ども同士で語り合う時間を設定し、それを引き出して画用紙等を書いて提示したり、それを校舎図や写真に貼ったりする。	
<input type="checkbox"/>	1	○「附属小の楽しいところ」を発表する。 ・学習参観で、保護者に対して、附属小に対する思いや、これからやってみたいことを発表する。	○探検して附属小の一員となったことを実感できるように、「施設にある物や数」「先生の仕事の目的」の視点を引き出す。	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2	○まだ分からないことや、もっと知りたいことを探検して確かめる。（人への興味） ・クラス全体で、1つの教室を訪問する。または、クラス半分ずつで、2つの教室に訪問する。 ・その教室に関わる先生と出会い、その教室の説明を聞いたり、質問をしたり、簡単な体験をしたりする。	○学校の施設や働く人々に愛着をもてるように、「好きになった理由や出来事」や「小学校でやってみたいこと」の視点を引き出す。 ○附属小への思いを共有できるように、これまでの写真や子どもの言葉を書いた画用紙、模造紙等を掲示する。	
<input type="checkbox"/>	1	○探検を行い、見付けた物、分かったことを語り合い、クラスで共有し、これまでの成果をまとめる。		
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	国語 1	○探検でお世話になった教職員と、もっと仲良くなるために、名刺等を作成し、それを渡しながら自分の気持ちを	○これから附属小で生活していく意欲が高まるように、「これまでの探検を通して思ったこと」の視点を引き出	◇これまでの探検で見付けたり、気付いたり、感じたりしたことを絵や言葉で表し、伝えている。

	<p>伝える。 ・自分の名前や似顔絵，その教室で印象に残った場面の絵などをかき，附属小への期待や思い，お礼を教職員に話す。</p>	<p>す。</p>	
<p>【備考】 ※「絞っていく」際には，給食室，放送室，理科室，音楽室，被服室，調理室，図工室，体育館のいずれかを選択肢として，クラスで2つに行って，その部屋の責任者や各教科担当と出会い，その教室で見学したり，体験したりできるようにする。 （例）給食室…調理中の様子を見学する。／放送室…委員が放送している様子を見学する。／理科室…簡単な実験をする。／音楽室…楽器に触れる。／被服室…簡単な裁縫をする。／調理室…簡単な調理をする。／図工室…簡単な工作をする。／体育館…道具を使った運動をする。等 ・校長室，教員室，保健室，事務室は，利用の仕方を確認する。 ・図書室は，国語の授業で使い方を学習する。 ・校庭は，なかよしタイムや，体育の「遊具遊び」の際に行う。 ・授業中に教室等を回るため，事前に協力を呼びかけておく。 ・気付きの質としては，自教室の近くから遠くの教室へ，場所から人へといった高まりが想定される。 ☆国語科の名刺作りや，算数科の数を数える学習との接続が想定される。 ☆教科書 2～13 ページ</p>			

生活科（わくわくタイム） 1年

大単元	Ⅲ だいに そだてよう
目標	植物を育てる活動を通して、植物の変化や成長の様子に関心をもって世話をすることができ、それらは成長していることに気付くとともに、植物に親しみを持ち、大切にしようとする。

小単元	Ⅲ-1 たねまきをしよう	5月（わくわくタイム45分1単位×4時間）【内容項目：（5）（7）】
-----	--------------	------------------------------------

目標	アサガオの気持ちを考えながら世話をすることを通して、アサガオの種の特徴や芽の様子に気付き、種のまき方や世話の仕方を考えながら大切に種まきや世話をします。	
----	--	--

チェック	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法（観点）>
<input type="checkbox"/>	1	○2年生からアサガオの種をもらう。	○アサガオの成長への思いや育てていく意欲をもてるように、2年生からもらったアサガオの種やきれいに咲いたアサガオの写真等を掲示する。	◇アサガオを育ててきれいな花を咲かせたいという思いや願いを絵や言葉で表している。 ◇種の気持ちを考えながら、種まきに必要なものや種まきの仕方を伝えている。
<input type="checkbox"/>	国語	○2年生からもらったアサガオの種の様子やもらった時の自分の気持ちを絵や言葉で表す。		
<input type="checkbox"/>	1	○種まきの時の種の気持ち、種まきやお世話に必要なものを話し合う。	○種の気持ちを考えられるように、種のイラストと吹き出し入りの学習プリントを用意したり、種になりきる場を設定したりする。	◇種の気持ちを考えながら、土の柔らかさや水の量に気を付けて、種まきや水やりをしている。
<input type="checkbox"/>	1	○自分の鉢にアサガオの種をまき、よかったことを伝え合う。	○種まきの見通しをもてるように、これまでの経験を問ひかけ、作業手順を話し合う場を設ける。	
<input type="checkbox"/>	常時	○アサガオに水やりを行う。	○種の気持ちを基に、種をまく深さやベッドのような土の柔らかさを考えられるように、土に十分触れる時間と場を設ける。	
<input type="checkbox"/>	1	○種まきの様子やアサガオの気持ちを「あさがおかあど」にかく。	○アサガオの成長への願いや成長に向けた世話への思いをもつことができるように、「アサガオへの気持ち」や「アサガオにしてあげたいこと」といった視点を引き出す。	◇種まきをして気付いたことやアサガオの気持ちを大切に世話をしていることを絵や文で表している。

【備考】

- ・種まきは、5月上旬（ゴールデンウィーク明けすぐ）に行う。種は、購入した物を使用する。ただし、本単元の実施前に各学級に2年生と相談し、種をもらえるようにする（4月下旬）。もらった種は発芽率が落ちるので、学年園にまき、残りは家庭に持ち帰ってまくようにする。種と受け皿付の鉢、土も購入する。（鉢に縦2列、横3列の合計6個まくとよい。）
- ・土を手でたたいて詰めすぎたり水をやりすぎたりすると根ぐされや病気等の原因になるので注意する。
- ・国語「あさがおかあどを かこう」と合科・関連して学習できるようにする。（この時期の「あさがおかあど」は絵を中心とした簡潔に書ける形式がよい。）
- ・学年園は、肥料をまいて耕しておくといよい。

☆教科書20～35ページ

大単元	Ⅱ たのしく あそぼう
目標	身近な自然や物を利用して遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、自然の様子や不思議さ、遊びの面白さに気付くとともに、友達や身近な人と関わりながら楽しく遊びを創り出すことができる。

小単元	Ⅱ-1 びゅーん！かみヒコーキけんきゅうじょ	5・6月（わくわくタイム45分1単位×9時間）【内容項目：（6）】
-----	------------------------	-----------------------------------

目標	紙飛行機を友達と飛ばすことを通して、折り方や飛ばし方の選択や力加減・角度の工夫をして、身近な物を利用した遊びを創り出すことのおもしろさ、友達と一緒に遊ぶことの楽しさ、自分自身の成長に気付き、友達との遊びを楽しむ。	
----	--	--

チェック	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準＜評価方法（観点）＞
<input type="checkbox"/>	1	○紙飛行機を飛ばして、その感想を伝え合うことで、学習のめあてをつかむ。	○紙飛行機をつかって楽しく遊びたいという思いや願いをもてるように、紙飛行機を用いて遊ぶ時間を十分確保する。	◇紙飛行機を飛ばした楽しさやもっと取り組みたいことを話したり、繰り返し紙飛行機を飛ばしたりしている。 ◇目指す紙飛行機を言葉や絵でかき、その実現のために必要な材料や折り方を選んでいる。
<input type="checkbox"/>	1	○自分が目指す紙飛行機を実現するためのイメージを言葉や絵でかく。	○目指す紙飛行機を実現するための見通しをもてるように、大きさや材質の異なる紙や、型の異なる紙飛行機の折り方図を用意する。	
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	3	○友達と相談しながら自分が目指す紙飛行機を折り、飛ばす。	○友達と関わり合いながら、作ったり遊んだりできるように、できたことと子どもの名前を模造紙に書き込んでいく場を設定する。	◇友達と活動したことを基に、材料や折り方、飛ばし方の工夫について発言したり、紙飛行機をつくりかえたりしている。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	2	○完成した紙飛行機で、友達とさらに楽しく遊べるように遊び方を工夫する。	○自分と友達の紙飛行機を比べたり、自分が目指す紙飛行機について互いに相談したりしながら折り方や飛ばし方の工夫を見付けられるように、「材料」「折る」「飛ばす」の各コーナーを設定する。 ○紙飛行機を使った遊び方をイメージできるように、「紙飛行機を使ってできる遊び方」という視点を引き出す。	◇紙飛行機をより遠くに飛ばす競争や、的当てといったゲームを行って、友達と楽しく遊んでいる。
<input type="checkbox"/>	1	○自分の紙飛行機で友達と楽しく遊べた理由について考え、これから友達と遊んでみたいことを話し合う。	○友達と楽しみながら目指す紙飛行機をつくることのできた自分自身への気付きを得られるように、「楽しい『紙飛行機研究所』にするためにがんばったこと」という視点を引き出す。	◇友達と楽しみながら目指す紙飛行機をつくることのできた自分自身のよさについて、言葉や絵でかいている。

【備考】

- ・紙飛行機は、B5，A4のコピー用紙，折り紙の大・小，半紙，画用紙，模造紙を用意する。
- ・安全のため，理科部から「保護メガネ」を借用し，紙飛行機を飛ばすときには，着用するように指導する。
- ・はじめは生活科室内や教室内で，飛ばす方向を決めて飛ばすと，雨天でも安全に実施できる。室内ならば，風がなく，「作って飛ばす」ことが容易に繰り返し行える。だんだん子どもの思いや願いによって，校庭や体育館といった広い場所での活動に切り替える。
- ・バケツなどを用意しておく。飛ばすことが上達した際，的当てのように「バケツに入れる遊び」に発展していく。
- ☆遠くに飛ばしたことを競争するときや，バケツ等に入れて遊ぶときに，教室の床のマス目を使って，算数科の長さの学習との接続が想定される。
- ☆教科書38～51ページ

小転	Ⅲ-2 おおきくなあれ	6・7月(7時間)【内容項目:(5)(7)】		
目標	アサガオの世話をすることを通して、アサガオの気持ちを考えながら世話の仕方を考えることができ、葉やつるの様子の変化や成長に合った世話の仕方に気が付き、大切にアサガオの世話をします。			
評価規準	(①知・技) 葉やつるの様子の変化や、成長に合った世話の仕方に気付いている。 (②思・判・表) アサガオの成長に合った世話の仕方を考え、アサガオの成長の様子や成長する喜びを友達に伝えている。 (③主体的態度) アサガオの成長に関心をもち、アサガオの世話を続けようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1 国語1	○アサガオの様子を「アサガオ健康観察カード」に記述したり発表したりして、アサガオへの思いを話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて アサガオの気持ちを考えて、大きくなるようにお世話をし、きれいな花を咲かせよう	○アサガオを大きく育てたいという思いをもてるように、葉の数、色、大きさ、気持ち等の視点を基に、「アサガオ健康観察カード」へ記述する時間を設定する。	◇今まで育ててきたアサガオをさらに大きく育てたいという思いや願いを伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
かかわる	2 1 1 常時1	○アサガオや写真、「アサガオ健康観察カード」を基に、アサガオの様子で嬉しかったことを紹介し合い、アサガオの世話をします。 ○アサガオや写真、「アサガオ健康観察カード」を基に、アサガオの様子で心配なことを紹介し合う。 ○アサガオの様子で心配なことを基に、間引きの仕方について話し合う。 ○アサガオの成長に合った世話をします。 ○間引きをし、学年園等に植え替える。	○アサガオの様子が変わっていることに気付けるように、「アサガオの様子で嬉しかったこと」を伝え合う機会を設定する。 ○アサガオの成長で心配なことを実感し、世話の仕方を変える必要性に気付けるように、芽の混み具合や水やりなど心配なことごとに整理して板書する。 ○アサガオの気持ちを考えながら、新たな成長に合った世話の仕方を見いだせるように、アサガオの世話の仕方を友達と伝え合う機会を設定する。 ○アサガオの植え替えができるように、植え替えの仕方を例示したり、植え替える場所を用意したりする。	◇葉の数や大きさ等、自分のアサガオの様子の様子について、嬉しかったことを伝えている。 <発言①> ◇葉の数や大きさ等、自分のアサガオの様子の変化について、心配なことを伝えている。 <発言①> ◇アサガオの様子を基に、アサガオの気持ちと自分の思いや願いを考えながら、自分なりの間引きの仕方を伝えている。 <発言②> ◇アサガオの気持ちを基に、自分の考えた植え替えの仕方です。植え替えしている。 <行動①>
・まいとかめする	1 国語	○「アサガオ健康観察カード」に植え替えた際のアサガオの様子や自分の気持ちを記録し、伝え合う。	○アサガオを大きく育てられた自分自身に気付けるように、時期ごとのアサガオの写真を提示し、今までの世話の仕方とアサガオの成長を振り返る場を設ける。	◇アサガオが少しずつ成長してきている喜びと、水やりや植え替え等の成長に合った世話の仕方が変化していることを結び付けて記述している。 <学習プリント①②③>
【備考】 ・同じ思いや願いをもってアサガオの様子を発表したり、世話の仕方を話し合ったりできるように、アサガオの成長段階が同じ子ども同士のグループを編制する。 ・成長したアサガオは植え替えをし、クラス全員で世話や観察をしていき、思い出の作品作り等の学習に活用できるようにしていく。なお、成長の様子を写真等に撮って残していく。 ・アサガオの植え替えは、本葉が2～3程度でできたところで行うとよい。(特支との交流を行ってもよい。その場合は、日程調整をしておく。) ・事前に学級園にアサガオアーチ用の支柱を立て、ネットを貼る(各クラス横に2列)。 ・アーチの代わりに、各教室の前に2階からキュウリネットを垂らし、グリーンカーテンを作ってもよい。 ・鉢植えのアサガオは、夏休み前に家庭に持ち帰って世話をします(学年通信で家庭に連絡をする)。植木鉢は2年生の野菜の単元で使用する。 ・夏休み後にアサガオの花を利用することから、夏休み中も液肥を与えたり、追加で種を蒔いたりしておく。 ・防草シート(マルチ)を、5月中旬頃までに用意するとよい。				

小軌	Ⅲ-3 おおきくなった アサガオ	7・9月(8時間)【内容項目:(5)(7)】		
目標	アサガオの記念品を作る活動を通して、アサガオの利用の仕方を考えることができ、アサガオの花や葉、種の成長に気付き、進んで記念品を作る。			
評価規準	(①知・技)アサガオの成長の様子や、自分の取組のよさに気付いている。 (②思・判・表)アサガオの花や葉、種の特徴を生かした利用の仕方を考え、工夫して記念品を作っている。 (③主体的態度)アサガオの成長を喜び、進んで記念品を作ろうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○アサガオを使ったものづくりを知り、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 大きくなったアサガオの花や葉、種で記念品を作り、アサガオの作品の展示会をしよう	○大切に育てたアサガオを生かして記念品を作りたいという思いをもてるように、成長したアサガオの気持ちを想像する機会を設定する。	◇アサガオの記念品を作ることへの思いを言葉や文で表している。 <発言・学習プリント①②③>
かかわる	1 2 1 1	○大きくなったアサガオの記念品を作る計画を立てる。 ○計画にそって準備をし、アサガオの記念品を作る。 ○作ったアサガオの記念品を友達と紹介し合う。 ○アサガオの記念品を作ったり、作り変えたりする。	○アサガオの特徴を生かした記念品の作り方を考えられるように、アサガオの記念品を例示する。 ○アサガオの花や葉、種の特徴を生かして記念品を作れるように、同じ種類の記念品を作る子ども同士のグループを編制する。 ○作った記念品のよさや工夫に気付けるように、異なる種類の記念品を作る子ども同士のグループで紹介し合う機会を設定する。 ○記念品をさらに工夫できるように、前時の学習で挙げた友達の記念品のよさを掲示する。	◇花や葉、種の色や形、大きさ等のアサガオの特徴を生かした記念品の作り方を記述している。<計画カード③> ◇アサガオの花や葉、種の色や形、大きさ等の特徴を生かしてアサガオの記念品を作っている。<作品②> ◇自分の記念品の工夫の仕方を伝えたり、記述したりしている。<発言・学習プリント②> ◇アサガオの花や葉、種の色や形、大きさ等の特徴を生かして作ったり、工夫したりしている。<作品②>
いまとめる・	1 1 常時 国語	○作ったアサガオの記念品を友達と見せ合い、アサガオや自分の記念品に対する気持ちを「アサガオカード」に表現する。 ○今までの「アサガオカード」を見返しながら、アサガオへの絵手紙を書く。 ○アサガオの種を取り、次年度の1年生への手紙を書く。	○自分のアサガオの記念品のよさに気付けるように「工夫したところ」「難しかったところ」の視点を提示する。 ○アサガオの世話をした充実感を実感できるようにアサガオになりきってアサガオの気持ちを考える機会を設定する。 ○次年度の1年生にアサガオを大切に育ててほしいという思いをもてるように、4月に2年生からアサガオの種をもらったときの写真を提示する。	◇自分の記念品のよさを伝えたり、記述したりしている。<発言・学習プリント①> ◇アサガオの気持ちを基に、アサガオが大きくなった喜びや世話をした充実感を絵や文で表している。<絵手紙①②③>
【備考】 ・アサガオの記念品の例示は、子どもたちが夏休みに作った物があればそれを活用し、イメージを広げられるよう補助的に行う。(記念品:色水、叩き染め、押し花、こすりだし) ・夏休み中に咲いた花を冷凍保存しておき、記念品作りで使用。 ・アサガオの花は朝早い時間帯の方がきれいに咲いているので、1・2校時に記念品作りができるようにする。 ・花の数に限りがある場合は、押し花等の形の残るものを作り、それを工夫できるようにする。 ・種取りは個々のアサガオの変化に合わせて行い、種を保管していく。取った種は乾燥し、来年度まで担任が保管する。年度末に次年度の2年の担任に渡し、1年生にプレゼントする。				

小単元	Ⅱ-2 ゆめいっぱい シャボンだま こうじょう		9月(6時間)【内容項目:(6)】
目標	友達とシャボン玉作りをすることを通して、シャボン玉の作り方の工夫をすることができ、シャボン玉の不思議さ、シャボン玉を作り出す面白さに気付くとともに、友達と楽しく遊ぶ。		
評価規準	(①知・技) 膜の色や形、動き、作り方による大きさや数の違いといったシャボン玉の不思議さ、シャボン玉を作り出す面白さ、友達と楽しく遊べた自分自身の成長に気付いている。 (②思・判・表) シャボン玉の作り方を考え、自分なりに工夫をして、シャボン玉を作っている。 (③主体的態度) シャボン玉作りに関心をもち、友達と楽しく作ろうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○シャボン玉を作って感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて シャボン玉工場のみんなで大きなシャボン玉やたくさんシャボン玉を作って遊ぼう	○大きなシャボン玉や数が多いシャボン玉を作りたいという思いをもてるように、試しのシャボン玉作りをする時間を設定する。 ◇大きなシャボン玉や数が多いシャボン玉が作れたイメージを絵や文で表している。 <学習プリント①②③>
かかわる	1 1 1	○同じシャボン玉工場の友達とシャボン玉作りをしながら作り方を試す。 ○同じシャボン玉工場の友達と作り方の案の相談をし合い、シャボン玉を作る。 ○異なるシャボン玉工場の友達と互いが作ったシャボン玉を紹介し合いながら作る。	○作り方のよさや問題点を見付け友達と相談できるように、作り方が異なるシャボン玉工場の友達と互いの作り方を評価する機会を設定する。 ○自分の思いや願いに合った作り方を考えられるように、共通の思いや願いをもちた同じシャボン玉工場の友達と、互いの作り方のよさを紹介する機会を設定する。 ○膜の色や形、動き、作り方による大きさや数の違いといったシャボン玉の不思議さに気付けるように、「友達のシャボン玉のよさ」「友達の工夫」を視点として提示する。 ◇作り方のよさや問題点を示したシールを基に、自らの思いや願いの実現状況を記述している。 <学習プリント②> ◇友達との相談を基に、作り方を工夫しながら、シャボン玉を作っている。 <発言・行動・製作物②> ◇膜の色や形、動きの不思議さや、大きさや数の違うシャボン玉を作る方法を絵や文で表している。 <学習プリント①>
・まいとかめする	1	○友達とシャボン玉で遊び、感想を絵や文で表す。	○自分の思いや願いに合ったシャボン玉を作り出す面白さと友達と楽しく遊ぶことができた自分自身の成長に気付けるように、「自分のシャボン玉のすごいところ」「がんばったこと」を視点として提示する。 ◇自分の思いや願いに合ったシャボン玉ができ、友達と楽しく遊べたのは、自分がかんばってきたからであることを絵や文で表している。 <学習プリント①②③>
【備考】 ・シャボン玉で使用する洗剤は、界面活性剤の割合が多いもの(40%以上)を使用するとよい。 ・シャボン液は、次の材料と割合で作製すると割れにくい。(洗剤:洗濯のり:水=1:5:10) ・シャボン玉を作る道具としては、金魚すくいのポイ、ハンガー、うちわの骨、四角いマス目が1年フロアにある。 ・実習生用単元として実施することが多い。 ☆教科書38~51ページ			

小単元	I-3 こうえんを たんけんしよう		9・10月(8時間)【内容項目:(1)(3)(4)】
目標	公園探検をすることを通して、公園や公園にある自然や遊具、施設との関わり方について考えることができ、公園や公園にある自然や遊具、施設の様子に気づき、楽しく探検する。		
評価規準	(①知・技)公園や公園にある自然や遊具、施設の様子や、みんなで使う物と人々との関わりに気付いている。 (②思・判・表)公園や公園にある自然や遊具、施設との関わり方について考えたり、気付いたことや楽しかったことを表現したりしている。 (③主体的態度)公園や公園にある自然や遊具、施設に関心をもち、楽しく関わろうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○学校の周りがある公園で遊ぶ。 <日吉1号公園(ドングリ公園)>	○公園の楽しさを味わえるように、遊ぶ時間を十分確保する。
	1	○学校の周りがある公園で遊んで発見したこと等を話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 公園を探検して、見つけた公園の「ステキ」を友達と伝え合おう	○公園に自然や遊具、施設があることに気付けるように、見つけたものを「木」や「すべり台」、「ベンチ」と同じ仲間ごとに整理して板書する。
かかわる	1	○公園探検の計画を立てる。	○公園にある自然や遊具、施設に関心をもてるように、「自然」「遊具」「施設」と調べる担当者を書く探検計画カードを用意する。
	2	○2回目の公園探検をする。	○公園にある自然や遊具、施設の特徴に気付けるように、自然や遊具、施設の数や数を書く探検カードを用意する。
	1	○2回目の公園探検で見つけたものや探検をして思ったことを振り返る。	○見つけた自然や遊具、施設のよさを考えられるように、自然や遊具、施設が公園にある根拠を確認する機会を設定する。
	2	○3回目の公園探検をする。	○公園ごとに自然や遊具、施設が異なることに気付けるように、1回目の探検カードを確認する機会を設定する。
	1	○3回目の公園探検で見つけたものや体験をして思ったことを振り返る。	○公園ごとに自然や遊具、施設が異なることや、公園を利用する人々のことを考えられるように、「自然」「遊具」「施設」という視点でそれぞれの公園のよさを整理して板書する。
・まいとかめする	1	○公園を探検して気付いたことや楽しかったことから、公園のステキなところを話し合い、発表する。	○公園にあるものや楽しさを実感できるように、「驚いたこと」や「楽しかったこと」の視点を示した学習プリントを用意する。
【備考】 ・「ステキ」の意味を子どもと共有しながら、確かめることが必要である。そこには、算数科と関連させ、長さや数の視点を入れられるとよい。 ・公園探検では、遊ぶ時間と探検する時間に分け、ローテーションを設定するとよい。 ・探検では、公園にいる生き物とも関わられるようにする。 ・意欲的に公園探検をすることができるように、かかわる過程において、ビンゴカード形式の「探検カード」を用意する。 ・マナーや危険な行為について事前に指導をする。 ・熱中症等が心配される場合は、実施時期をずらす。 ・3回目の公園探検は、次単元「あきランドをつくろう」の秋探しと兼ね、「どんぐりや松ぼっくり等を使って遊びたい」という思いを引き出す。 ・「ステキを見付ける」という視点を、赤城オリエンテーリングとつなげられるとよい。 ☆教科書14～19、52～63ページ			

小単元	Ⅱ-3 あきランドをつくろう		10・11月(10時間)【内容項目:(5)(6)】
目標	落ち葉や木の実、枝等を使って遊ぶ物を作り、秋ランドで友達と関わる活動を通して、遊ぶ物や遊び方を工夫することができ、秋の特徴・よさを使って遊ぶ楽しさに気づき、みんなで楽しく遊ぶ。		
評価規準	(①知・技) 落ち葉や木の実、枝等の特徴や、それらを使って友達と関わりながら遊ぶ楽しさに気付いている。 (②思・判・表) 落ち葉や木の実、枝等の材料を生かして遊ぶ物を作ったり、遊び方を工夫したりしている。 (③主体的態度) 落ち葉や木の実、枝等を使って、友達と遊ぶ物を作ったり、遊んだりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	前単元 1	○校庭や公園で秋探しをする。 ○秋の作品で遊び、落ち葉や木の実、枝等で楽しめそうなことを話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 落ち葉や木の実で作った秋の作品で楽しく遊べるあきランドをつくろう	○落ち葉や木の実、枝等と十分に触れ合えるように、拾ったり触ったりする時間を設定する。 ○楽しく遊べる秋ランドへの思いをもてるように、教科書の絵や秋の作品を例示する。
かかわる	1 常時 3 1 1	○秋の作品作りの計画を立てる。 ○校庭や公園、自分の家の近くで落ち葉や木の実を集める。 ○秋の作品を作る。 ○秋の作品で友達と遊んで、秋の作品を友達と紹介し合う。 ○秋の作品を見直して、作り変える。	○落ち葉や木の実、枝等の特徴を生かした秋の作品のイメージをもてるように、「イメージ図」「使う秋」「準備するもの」が書く作品カードを用意する。 ○落ち葉や木の実、枝等の特徴を生かして作品作りができるように、「形」「色」「大きさ」の視点を提示する。 ○友達の秋の作品のよさを知れるように、友達の秋の作品のよさや改善点を書く「ここがいいねカード」を用意する。 ○秋の作品を見直したり工夫したりできるように、友達の作品のよさをまとめた模造紙を提示する。
まいとかめする	1 1 1	○秋ランドの準備をする。 ○秋ランドで遊ぶ。 ○秋の作品作りや秋ランドで気付いたことや楽しかったことを話し合い、「振り返りカード」を書く。	○秋の作品のよさを友達に紹介できるように、「自慢できる」「友達に伝わる」という視点で、各グループに応じて必要なものを用意する。 ○自分や友達の作った秋の作品のよさを実感できるように、秋の作品を紹介し合う時間を十分確保する。 ○秋の作品を作ったり遊んだりした自分自身のよさに気付けるように、活動の様子を写真で提示する。
【備考】 ・秋探しは、校庭と公園で行う。前単元「こうえんをたんけんしよう」の際に、秋の物を拾っておけるとよい。 ・秋の作品は、落ち葉や木の実、枝等といった秋のもの他に、割り箸や楊枝等の秋のもの以外は1つしか使えないという条件にすると作品に工夫がなされてよい。 ・子どもたちが持ってきた落ち葉や木の実、枝等を「秋コーナー」として教室に設置する。 ・事前に葉や木の実等の様子がどのようになっているのか把握しておく。ハナミズキが一番早く色付き、イチョウが一番遅い(11月半ば過ぎ)。 ・ ・特別支援学校との交流で「秋ランド」を実施することが多い。 ☆教科書64～83ページ			

生活科 1年

大単元	IV おおきくなった じぶんをしよう
目標	できることが増えてきた自分自身に気づき、成長することへの喜びや自分の役割を考えて意欲的に生活することができる。

小単元	IV-1 わくわく どきどき ようこそ小学校！			11～1月(15時間)【内容項目：(8)(9)】
目標	園児と交流することを通して、園児との関わり方や遊び方、学校のよさの伝え方の工夫をして、園児と交流する楽しさや、園児の気持ちを考えられるようになったこと、園児のために自分ができることが増えたこと等の自分自身の成長に気づき、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えたりする。			
評価規準	(①知・技) 園児と交流する楽しさや、園児の気持ちを考えられるようになったこと、園児のために自分ができることが増えたこと等の自分自身の成長に気付いている。 (②思・判・表) 園児の特徴・よさや園児の気持ち、昔遊びの特徴・よさを関連付けたりしながら、園児のために自分ができることを考えるという目的や課題を見出し、園児との関わり方や遊び方、学校のよさの伝え方の工夫をして遊んだり、伝えたりしている。 (③主体的態度) 園児と交流することへの意欲や自信を高めながら、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えようとしていたりしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○自分が幼稚園・保育園のときに思っていた小学校への期待や不安を話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 幼稚園の子が、入学式を楽しみにできるように、楽しく遊んだり、学校のよさを伝えたりしよう	○自分のできるようになったことに気付けるように、4月からの学習や生活の様子の写真を提示したり、教科書を示したりする。	◇自分のできるようになったことを基に、園児のためにしてあげたいことや一緒にしたいことを伝えている。 <発言①②③>
かかわる	4 3 常時 4 2	○幼稚園で、園児と一緒に遊ぶ計画を立て、園児と遊び、振り返る。(交流1) ○昔遊びをして、園児との交流で一緒に楽しめそうなものを見付ける。 ○小学校で園児と一緒に遊んだり、園児に学校のよさを伝えたりする計画を立てる。 ○小学校で園児と一緒に遊んだり、園児に学校のよさを伝えたりする。(交流2)	○幼稚園で遊ぶ内容を考えられるように、幼稚園にある遊具や使える道具と「園児が楽しめる」という視点を提示する。 ○遊び方やコツを考えることができるように、十分に遊ぶ時間を確保するとともに、名人技を動画で提示する。 ○園児の気持ちに寄り添った遊びや、学校のよさを伝える方法を考えられるように、「園児が楽しめる」といった振り返りの視点をカードにして提示する。 ○園児に学校のよさを教えたり、園児の気持ちを考えながら遊んだりできるように、これまでに話し合った内容をまとめた模造紙を用意する。	◇自分だけでなく、園児が楽しめるような遊びを伝えている。 <発言・行動②> ◇園児と一緒に楽しく遊ぶ方法や、学校のよさの伝え方について、友達に伝えたり、試したり、記述したりしている。 <発言・行動・学習プリント②> ◇園児にとっての遊びの難易度や気持ち、よりよい学校のよさを伝える方法について、友達に伝えたり、試したりしている。 <発言・行動①②③> ◇園児と交流する楽しさや、園児の気持ちを考えられるようになったことを伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
・ま生とかめする	1	○園児との交流で頑張ったことと喜んでもらった理由を話し合い、これからの生活でやりたいことを伝える。	○自分自身の成長を実感できるように、交流1と2の様子の写真を複数提示する。	◇幼稚園児の表情の変化や感想を基に、自分ができたことについて、絵や文で表している。 <学習プリント①②③>

【備考】
 ・幼稚園児との交流は、2回行えるようにする。1回目は、幼稚園の園庭で一緒に遊び、2回目は附属小の校庭等で交流できるようにする。クラスごとに実施できるとよい。
 ・保護者や地域の老人会と連絡をとり、おかし遊びの講師として来校していただく機会を設定してもよい。(特に、こまやけん玉、竹馬等、習得の難しい遊び)
 ・冬季休業中に家庭で昔の遊びについて話題にしてもらったり、家庭でできる遊びで一緒に遊んでももらったりできるように、学年通信等で家庭に協力を依頼してもよい。
 ☆教科書109～117ページ(幼稚園交流)
 ☆教科書108ページ(昔遊び)昔遊びのやり方の動画あり

小単元	II-5 からっかぜと あそぼう	2月(11時間)【内容項目:(5)(6)】		
目標	風で動くおもちゃを作って「からっかぜランド」をすることを通して、風の受け方や身近な材料の利用の仕方を工夫することができ、冬の特徴に気付くとともに、風で動くおもちゃを作って楽しく遊ぶ。			
評価規準	(①知・技) 冬の特徴や友達と風で動くおもちゃを作ったり遊んだりする楽しさ、自分自身や友達によさに気付いている。 (②思・判・表) 風で動くおもちゃの風の受け方や身近な材料の利用の仕方、その遊び方を工夫したり見直したりして、伝えている。 (③主体的態度) 身近な材料を使って、風で動くおもちゃで友達と楽しく遊ぼうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○校庭で冬探しをする。	○風を体全体で感じることができるよう、風に向かって走ったり風に飛ばされている落ち葉を捕まえたりするゲームを設定する。	◇葉の落ちた木々の様子や強い北風等の冬の特徴を伝えたり記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
	1	○風で動くおもちゃの見本で遊び、感想やこれから取り組みたいことを話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 冬のステキを見つけて、おもちゃを作ったり、遊びを考えたりして、「冬ランド」で友達と遊ぼう	○風で動くおもちゃを作って遊びたいという思いをもてるように、見本の風で動くおもちゃで遊ぶ時間を十分確保する。	◇見本の風で動くおもちゃや身近な物で、繰り返しからっ風で遊んでいる。 <行動①②③>
かかわる	1	○作りたい風で動くおもちゃや遊びについて話し合い、からっ風と遊ぶ計画を立てる。	○風で動くおもちゃ作りの見通しをもてるように、風で動くおもちゃ作り方の資料を提示する。	◇風で動くおもちゃや身近な物の資料を参考に作り方や必要な材料を記述している。 <学習プリント②>
	2	○風で動くおもちゃを作ったり、身近な物を使って遊んだりする。	○風で動くおもちゃを作ったり、風を利用した遊びを考えたりできるように、作るおもちゃや遊びが同じ子ども同士で、遊びを試す場を設定する。	◇自分のおもちゃや遊びが風を受けられるように、おもちゃや遊びの動きを試して、材料を選んだり作り直したりしている。 <行動②>
	1	○友達と風で動くおもちゃや考えた遊びで遊びながら紹介し合う。	○おもちゃがより風を受ける方法を見付けられるように、自分の風で動くおもちゃのよさや問題点を友達に伝え、改善策を聞く機会を設ける。	◇より風を受ける方法について、友達に伝えたり記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
	1	○風で動くおもちゃを作り変えたり、遊びを考えたりしながら、グループで遊び方を話し合う。	○風で動くおもちゃや遊びの遊び方を友達に伝えることができるように、「遊び方のルール」「使い方」の視点を提示する。	◇風で動くおもちゃや身近な物を利用した遊びの遊び方を伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント②>
	1	○グループのからっ風との遊び方を決め、準備をする。	○「からっかぜランド」に向けた、からっ風と楽しく遊べる遊び方のルールを決められるように、「遊ぶ場所」「笑顔になれる」という視点を提示する。	◇風で動くおもちゃや身近な物を利用した風との遊びの、楽しくからっ風で遊べるような遊び方のルールを伝えている。 <発言・行動②>
・まいとかめする	1	○風で動くおもちゃやその遊び方を見直し、「からっかぜランド」の準備をする。	○風で動くおもちゃを作ったり遊んだりして工夫したことを自覚できるように、「おもちゃの工夫と遊び方」「楽しさ」の視点を示した学習プリントを用意する。	◇風の特徴やよさを生かした遊び方や、風となかよくなった自分自身のよさを絵や文で表している。 <学習プリント①>
	2	○「からっかぜランド」で友達と遊び、気付いたことや楽しかったことを話し合い「振り返りカード」を書く。	○風で動くおもちゃで友達と遊ぶ楽しさを実感できるように、友達とおもちゃで遊ぶ時間を十分確保する。	◇おもちゃで友達と遊ぶ楽しさについて記述している。 <学習プリント①②③>
【備考】 ・導入で例示する風で動くおもちゃは、子どもたちが自分の手で作れる物がよい。(例:ビニール袋風、紙だけの風、紙皿の風輪、紙の風車など)教科書に参考となる動画や図がある。 ・風で動くおもちゃの作り方を見直したり工夫したりすることができるように、材料コーナーを設置する。(画用紙、ビニール、竹籤、たこ糸、紙皿、プラボード等) ・風を飛ばす際は、持ち手を作ったり、輪ゴムで腕に付けられるようにしたりして、校外に飛ばされないように留意する。 ・理科室からサーキュレーターを借用し、室内で試しの活動ができるようにするとよい。 ☆教科書94～107ページ				

小単元	IV-2 かぞくの中の ぼく・わたし「かぞく にここに 大きくせん」		3月(8時間)【内容項目:(2)(9)】
目標	家庭で自分のできることに取り組むチャレンジを行うことを通して、家族のことや自分のできることを考えることができ、家族の大切さに気付くとともに、自分のできることを進んで行う。		
評価規準	(①知・技) 家庭生活の楽しさや、家庭の中で自分のできること、家族の大切さに気付いている。 (②思・判・表) 家庭の中で自分のできることを考え、自分の役割を工夫したり増やしたりしている。 (③主体的態度) 家庭生活に関心を持ち、家庭の中で自分のできることを進んで行おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○学校でできるようになったことと、家庭でできるようになったことを振り返り、家庭生活において自分ができていることを話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 家の中で自分のできることを見付け、工夫してチャレンジし、かぞくをえがお(にここに)にしよう	○家の中で自分ができていることにチャレンジしようという思いをもてるように、家族が家での仕事をしている時の気持ちを整理して板書する。
かかわる	2 家庭 2 家庭	○家庭で自分のできることに取り組むチャレンジ1回目の計画を立てる。 ○計画を基に、チャレンジ1回目を行う。(自分ができている仕事) ○家庭での取組を紹介し合ったり、続けてできていることを考えたりしてチャレンジ2回目の計画を立てる。 ○計画を基に、チャレンジ2回目を行う。(自分が続けてできている仕事)	○自分がする仕事を見付けられるように、自分ができている仕事や日付を示した学習プリントを用意する。 ○自分が続けてできている仕事を見付けられるように、「お手伝いをしてがんばったこと」と「毎日できること」の視点を提示する。
・まいとかめする	2	○今までのチャレンジを振り返って感想を発表し合ったり、自分への賞状を書いたりする。	○チャレンジしたことのよさを実感できるように、「家族からの言われたこと」の視点を提示する。
【備考】 ・自分のできることには、「お手伝いをする」「自分のことは自分でする」「家庭が楽しくなることを工夫する」等が考えられる。毎日取り組めることに限定するのもよい。 ・1回目は、「自分でできる」の視点で仕事を決める。2回目は、「続けられる」の視点で仕事を決める。 ・1回目は、土日を含めて行えるとよい。2回目は、一週間継続していけるよい。 ・追究は家庭での活動となるので、家庭との連携を取って進めていくことが大切である。家庭での活動の様子を教えてもらえるようにする。 ☆教科書 84～92ページ			

(その他の単元例)

生活科 1年

小単元	Ⅱ・〇みんなであそぼう だろんころんど		6・7月(7時間)【内容項目:(6)】
目標	泥を利用して遊ぶことを通して、泥の遊び方の工夫をして、泥遊びの面白さや泥の不思議さ、自分自身の成長に気付き、友達と楽しく遊ぶ。		
評価規準	(①知・技) 自分で遊びを創り出す面白さや友達と関わる楽しさ、手や足で触れた際の感触や音、見た目、形が変わるといった泥の不思議さ、遊び方を考えて友達と楽しく遊ぶことができた自分自身や友達の存在に気付いている。 (②思・判・表) 自分と友達の泥の遊び方を比べたり関連付けたりして、泥の遊び方の工夫をして遊んでいる。 (③主体的態度) 泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いの実現に向けて、泥の遊び方を創り出して、友達と楽しく遊ぼうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	○泥を触ったり、遊んだりした感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 泥の遊び方の工夫をして、みんなと楽しく「だろんころんど」で遊ぶ	○泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いをもてるように、諸感覚を働かせて泥を触って遊ぶ時間を十分確保する。
かかわる	1	○泥に触れながら、泥の遊び方を試す。	○泥の遊び方を見いだすことができるように、バケツやじょうろ、スコップを置いた道具コーナーと、前時の感想をまとめた模造紙を用意する。
	1	○泥の遊び方を考えて遊ぶ。	○自分と友達の泥の遊び方を比べて、泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きを得られるように、泥の遊び方を友達と伝え合う活動を設定する。
	1	○考えた泥の遊び方で友達と遊ぶ「だろんころんど」に向けて準備をする。	○自分の考えた泥の遊び方を友達に紹介できるように、「泥と仲良くなるには」「友達と仲良くなるには」の視点を提示する。
	1	○「だろんころんど」をする。	○泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きの自覚ができるように、「友達の遊びの楽しかったところ」「楽しかった理由」を視点として提示する。
・まいとかめする	1	○泥遊びで友達と楽しく遊べた理由について表現し、生活の中におけるこれからの自分の遊びについて話し合う。	○泥の遊び方を考えて友達と楽しく遊べた自分自身や友達の存在への気付きを得られるように、「楽しい泥の遊び方にするためにがんばったこと」を視点として提示する。
【備考】	・特別支援学校の児童との交流を取り入れるとよい。 ☆教科書36～51ページ		

小単	Ⅱ・〇わくわく ウォーターランド		6・7月(8時間)【内容項目:(6)】
目標	水を飛ばしたり、降らしたり、流したり、溜めたりして遊ぶことを通して、水の特徴やよさを生かした遊びを創り出す面白さや友達と一緒に遊ぶ楽しさ、自分自身の成長に気付くことができる。		
評価規準	(①知・技) 水の特徴・よさを生かした遊びを創り出す面白さ、友達と一緒に遊ぶ楽しさ、友達と楽しみながら遊びを創り出すことができた自分自身の成長に気付いている。 道具の準備や片付け、整理整頓ができる。 (②思・判・表) 友達と水遊びを比べたり相談したりしながら、水の特徴・よさを生かした遊びを繰り返し試し、改善している。 (③主体的態度) 水の特徴・よさを生かして遊ぶことへの意欲や自信を高めながら、友達と楽しんで水遊びを創り出している。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	2	〇試しの水遊びをし、その感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ わくわくする水遊びを考えて、「ウォーターランド」で友達と遊ぼう	〇楽しく水遊びをしたいという思いや願いをもてるように、遊ぶ時間を十分に確保する。 ◇友達と進んで水遊びをしたり、水遊びの楽しさやもっと遊びたい気持ちを伝えたりしている。〈行動・発言①②③〉
かかわる	1	〇水の特徴・よさを基に、自分がやってみたい水遊びを決める。	〇飛ばす、降らす、流す、溜めるといった水の特徴・よさを生かした遊びのイメージをもてるように、水遊びの絵や遊び方、必要な道具を書き込める学習プリントを用意する。 ◇自分の目指す水遊びについて、遊ぶ様子や遊び方、必要な道具を絵や言葉で記述している。〈学習プリント②〉
	1	〇イメージした水遊びを試す。	〇イメージした水遊びを繰り返せるように、ペットボトルやプラスチックコップ等の可塑性のある道具を用意する。 ◇考えた水遊びを複数回試したり、楽しさを発言したりしている。〈行動・発言②〉
	1	〇他の場の友達と遊ぶ。	〇友達の水遊びの楽しさに気付けるように、友達の遊びの「わくわくするところ」という視点を提示する。 ◇友達の水遊びで進んで遊んだり、楽しさを発言したりしている。〈行動・発言①〉
	1	〇みんながより楽しめる遊び方を考え、試す。	〇自分や友達の遊びの楽しさに気付けるように、前時に友達と遊んだ時の動画を用意し、「わくわくするところ」と「友達の様子」という視点を提示する。 ◇自分や友達、他グループの水遊びから得た水の特徴・よさを基に、水の使い方や遊び方の工夫について発言したり、試したりしている。〈発言・行動②〉
・まいとかめする	1	〇「ウォーターランド」で友達と遊ぶ。	〇友達と水遊びをすることの楽しさを実感できるように、「『ウォーターランド』のよいところ」の視点を提示する。 ◇複数の友達と水遊びをしたり、友達と一緒に水遊びをすることの楽しさについて発言したりしている。〈行動・発言①②③〉
	1	〇「ウォーターランド」で遊んだことを振り返る。	〇水の特徴・よさを生かした遊びを創り出すことの面白さや友達と一緒に遊ぶことの楽しさ、自分自身の成長を実感できるように、「『水』『友達』『自分』のよかったところ」という振り返りの視点を提示する。 ◇自分や友達の水遊びの楽しさや友達と一緒に遊ぶことの楽しさ、自分ができるようになったことを絵や文で記述している。〈学習プリント①②③〉

小単元	II・〇 あきてらんかいを ひらこう		10・11月(11時間)【内容項目:(5)(6)】
目標	落ち葉や木の実、枝等の秋の物を使って作品や遊ぶ物を作り、「みんなの秋展覧会」で作った作品や遊ぶ物を紹介し合う活動を通して、作品や遊ぶ物を作る工夫をし、秋の特徴やよさ、自分自身の成長に気付き、今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとする。		
評価規準	(①知・技) 秋の特徴・よさや自分自身の成長に気付いている。 (②思・判・表) 秋の物を使った作品や遊ぶ物を友達と比べたり相談したりしながら、工夫したり試したりしている。 (③主体的態度) 秋の物を使って作品や遊ぶ物を作る意欲や自信を高めながら、秋の特徴・よさを見付けようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○公園で見付けた秋の物についての感想を発表し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 秋の作品や遊ぶ物を作って、秋のいいところをたくさん見付けよう	○作品や遊ぶ物を作って秋のよいところを見付けたいという思いや願いをもてるように、過年度の1年生が秋の物を使って作った作品や遊ぶ物の静止画を提示する。
かかわる	1 常時 2 1 2	○秋の物を使った作品や遊ぶ物を作る計画を立てる。 ○校庭や公園、自分の家の近くで落ち葉や木の実、枝等を集める。 ○秋の物を使った作品や遊ぶ物を作る。 ○作った作品を見せ合ったり、遊ぶ物を使って遊んだりする。 ○作品や遊ぶ物を作り直したり、「みんなの秋展覧会」の準備をしたりする。	○秋の物を使った作品や遊ぶ物のイメージを膨らませられるように、過年度の1年生の作品と遊ぶ物の静止画をそれぞれ複数枚モニターで提示する。 ○秋の物を使った作品や遊ぶ物を工夫できるように、作りたい物が似ている友達を集めた座席配置をする。 ○秋の特徴やよさにさらに気付けるように、見たり遊んだりした感想を伝える際に「よかったところ」「こうするといいよ」の視点を提示する。 ○秋の物を使った作品や遊ぶ物をさらに工夫できるように、友達の作品を見る機会や遊ぶ物を試すコーナーを設定する。
・まいとかめする	2 1	○「みんなの秋展覧会」で、作った作品や遊ぶ物を紹介し合う。 ○「秋展覧会アンケート」をして、単元の学習を振り返る。	○秋の特徴・よさや自分自身の成長を実感できるように、友達の作品や遊ぶ物を評価するシールとその台紙を用意する。 ○今後の生活に秋の特徴・よさを生かそうとする意欲をさらに高められるように、「気付いたこと」「これからしていきたいこと」の視点を提示する。
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇落ち葉やドングリ、松ぼっくり等で何かを作って秋のよいところを見付けたいという思いや願いを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③> ◇自分の作りたい作品や遊ぶ物に必要な材料、作る手順を発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①> ◇作品や遊ぶ物について友達と相談したり、試したり、他の人の遊ぶ物をじっくり見たりしている。 <行動・発言②> ◇自分の作品や遊ぶ物のよさ、次に直したいところを発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①> ◇本時で自分が工夫したところを発言している。 <発言②> ◇自分の作品や遊ぶ物にある秋の特徴・よさや自分がかんばったことを発言している。 <発言①> ◇秋の物を使った作品や遊ぶ物を作って楽しかったことやこれからも秋の物を使って遊びたいといった思いを、絵や文で記述している。 <学習プリント①②③>